

■＜参考資料＞中小企業診断士第2次試験の出題の趣旨

中小企業診断協会が公表している出題の趣旨です。

令和3年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅰ」の出題の趣旨

第1問（配点 20点）

ニッチ戦略、高付加価値分野への経営資源の再配分について、経営戦略の視点から分析する能力を問う問題である。

第2問（配点 20点）

先代経営者からの事業承継や後継経営者の新規事業の立ち上げに関して、経営組織の視点から分析する能力を問う問題である。

第3問（配点 20点）

事例企業の競合との差別化や新規事業と既存事業とのシナジー効果について、事業戦略の視点から分析する能力を問う問題である。

第4問（配点 20点）

協力企業との関係とネットワークの構築について、助言する能力を問う問題である。

第5問（配点 20点）

次世代経営者の事業戦略や経営組織の構築に関わる論点について、提言する能力を問う問題である。

以上

令和3年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅱ」の出題の趣旨

第1問（配点 20 点）

内外の経営環境を分析する能力を問う問題である。

第2問（配点 25 点）

強み・機会を活かすことで、弱み・脅威を克服するための、ターゲティング戦略、商品戦略、流通戦略を提言する能力を問う問題である。

第3問（配点 30 点）

フランチャイズ方式における役割分担を踏まえて、特定ターゲットへのニーズ対応方法を提言する能力を問う問題である。

第4問（配点 25 点）

新しい市場への参入に際して必要となる、製品戦略、コミュニケーション戦略を提言する能力を問う問題である。

以上

令和3年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅲ」の出題の趣旨

第1問（配点 20 点）

C社の事業内容を把握し、革製バッグ業界におけるC社の強みと弱みを分析する能力を問う問題である。

第2問（配点 30 点）

C社の受託製品の受注生産工程について、効率化を進める上で必要な課題を整理し、その対応策を助言する能力を問う問題である。

第3問（配点 20 点）

C社自社ブランド製品の開発強化の計画を実現するために必要となる製品企画面と生産面の課題について、助言する能力を問う問題である。

第4問（配点 30 点）

直営店事業を計画しているC社が、経営資源を有効に活用し、最大の効果を得るための自社ブランド製品戦略とそのための社内対応について、助言する能力を問う問題である。

以上

令和3年度「中小企業の診断及び助言に関する実務の事例Ⅳ」の出題の趣旨

第1問（配点 30 点）

（設問 1）

財務諸表を利用して、診断及び助言の基礎となる財務比率を算出する能力を問う問題である。

（設問 2）

財務比率を基に、事例企業の財務的特徴とリスク要素を分析する能力を問う問題である。

第2問（配点 30 点）

（設問 1）

設備更新投資において、耐用年数を残した旧設備を売却し新設備へと更新を行う場合における財務面での変化を整理し、初年度の差額キャッシュフローを算出する能力を問う問題である。

（設問 2）

設備更新投資における毎期の差額キャッシュフローを計算し、正味現在価値を算出する能力を問う問題である。

（設問 3）

設備更新投資において、更新時期を遅らせるという代替案が正味現在価値上有利となるための条件を求める能力を問う問題である。

第3問（配点 20 点）

（設問 1）

短期利益計画の策定に利用する損益分岐点分析において、与えられた情報を用いて目標利益を達成する販売量を算出する能力を問う問題である。

（設問 2）

目標販売量に応じて販売単価の設定が異なる場合において、与えられた条件に基づいて目標利益を達成するための販売量を算出する能力を問う問題である。

第4問（配点 20 点）

（設問 1）

不採算事業の状況を把握するとともに不採算となる要因を分析し、それを踏まえて対処法である業務統合が与える財務指標への短期的効果について適切に助言する能力を問う問題である

（設問 2）

不採算事業の特徴を理解し、その継続による企業価値への影響を長期的観点から適切に助言する能力を問う問題である。

以上